

事務事業名 有害鳥獣捕獲奨励事業		所属部 産業振興部	所属課 農林振興課
総 計 画 体 系	政策名 (V)賑わいあふれる雲南市《産業・雇用》	所属G 森林バイオマスグループ	課長名 西村 健一
	施策名 (33)農業の振興	担当者名 丹波鉄也	電話番号 0854-40-1051 (内線) 3706
	目的 対 象 市内の農業従事者	予算科目 会計 款 大事業 大事業 0 1 3 0 0 2 項 目 中事業 中事業 1 0 1 5 0 1	林業振興事業
	基本事業名 (096)生産基盤の整備・保全		有害鳥獣捕獲奨励事業
目的 対 象 農業従事者	意 図 A)消費者に信頼される安心・安全な農畜産物を生産する。B)農家所得の向上。		
	意 図 農業の生産性を維持・向上できるようにする。		

1 現状把握 [DO]

(1)事業概要

① 事業期間
<input type="checkbox"/> 単年度のみ <input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返 (16 年度～)
<input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 (年度～ 年度)
② 事業内容 (期間限定複数年度事業は全体像を記述)
鳥獣による農作物被害を防止するため鳥獣の駆除等を行う事業。 【主な事業内容】 ①被害状況の確認・駆除の依頼 (総合センター) ②有害鳥獣駆除の実施 (猟友会駆除班) ③捕獲鳥獣の確認 (総合センター) ④捕獲報償金等の支払い (本庁)

(2)事務事業の手段・指標

手 段	① 主な活動					
	25年度実績(25年度に行った主な活動) 有害鳥獣の駆除に係る事務 有害鳥獣捕獲報償金及び活動費の支払い等 平成26年7月より、鳥獣被害防止緊急捕獲等対策事業推進交付金を活用し、鳥獣被害防止対策を実施。	26年度計画(26年度に計画する主な活動) 有害鳥獣の駆除に係る事務 有害鳥獣捕獲報償金及び活動費の支払い等				
	② 活動指標	単位	23年度 (実績)	24年度 (実績)	25年度 (実績)	26年度 (計画)
	ア 駆除申込件数	件	152	107	63	60
	イ					
	ウ					
	エ					

(3)事務事業の目的・指標

目 的	① 対象(誰、何を対象にしているのか)	③ 対象指標	単位	23年度 (実績)	24年度 (実績)	25年度 (実績)	26年度 (計画)
	② 意図(対象がどのような状態になるのか) 有害鳥獣の捕獲等を行い農作物被害防止に努めることで、農家が安心して農業できる環境を整える。	ア 駆除班員	人	152	163	157	146
		イ 農家数	戸	4,545	4,545	4,545	4,545
		ウ					
		④ 成果指標	単位	23年度 (実績)	24年度 (実績)	25年度 (実績)	26年度 (計画)
		ア 有害鳥獣駆除頭数 (イノシシ・カラスなど)	頭・羽	1,138	1,852	2,226	1,239
		イ					
		ウ					

(4)事務事業のコスト

① 事業費の内訳 (25年度決算)	② コストの推移	単位	23年度(決算)	24年度(決算)	25年度(決算)	26年度(計画)	
■ 鳥獣駆除頭数 2,226頭 (イノシシ1,438頭・サル46匹・ヌートリア53頭・カラス293羽・タヌキ244頭・その他鳥獣152頭) ■ 有害鳥獣捕獲報償費:28,151千円 ■ 檻修理材料費:4千円 ■ 有害鳥獣活動費:1,578千円 ■ 消耗品:33千円 計29,766千円	財 源 内 訳	国庫支出金	千円				
		県支出金	千円				
		地方債	千円				
		その他	千円			4,212	4,000
		一般財源	千円	13,746	20,084	25,554	13,740
		事業費計 (A)	千円	13,746	20,084	29,766	17,740
	人 件 費	正規職員従事人数	人	4	3	3	
		延べ業務時間	時間	120	120	357	
		人件費計 (B)	千円	473	470	1,390	
		トータルコスト(A)+(B)	千円	14,219	20,554	31,156	

(5)事務事業の環境変化、住民意見等

① 環境変化 (この事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどう変化しているか? 開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか?)	② 改革改善の経緯 (この事務事業に関してこれまでどのような改革改善をしているか?)	③ 関係者からの意見・要望 (この事務事業に対して市民、議会、事業対象者、利害関係者等からどんな意見や要望が寄せられているか?)
依然として有害鳥獣による農作物被害が多い。銃免許保持者が減少しているため銃による駆除者の確保が課題となっている。 また、サルやクマなど山奥で生息していた鳥獣が、近年、里山へ出没して被害を与えるようになった。	捕獲報償費について猟友会との協議の結果、平成21年度よりイノシシの報償金について檻の場合は10千円、檻以外は25千円に削減することで理解を得て実施している。	農家・議会等から、さらに有害鳥獣駆除に注力して欲しいとの意見がある。

事務事業名	有害鳥獣捕獲奨励事業	所属部	産業振興部	所属課	農林振興課
-------	------------	-----	-------	-----	-------

2 事後評価【SEE】

A 目的 妥当性	① 政策体系との整合性 この事務事業の目的は市の政策体系に結びつくか？ 意図することが結びついているか？		見直し余地があるとする理由	
	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある	<input checked="" type="checkbox"/> 結びついている * 余地がある場合⇒		
	② 公共関与の妥当性 なぜこの事業を市が行わなければならないのか？税金を投入して達成する目的か？			
B 有効性	③ 対象・意図の妥当性 対象を限定・追加する必要はないか？意図を限定・拡充する必要はないか？			
	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である * 余地がある場合⇒		
	④ 成果の向上余地 成果を向上させる余地はあるか？ 成果を向上させるため現在より良いやり方はないか？ 何が原因で成果向上が期待できないのか？			
C 効率性	<input type="checkbox"/> 向上余地がある	理由	限られた駆除班員で実施しており、かつ野生鳥獣が相手のため成果の向上には限界がある。	
	<input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がない			
	⑤ 廃止・休止の成果への影響 この事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？		理由	事業を廃止すれば鳥獣被害が増加して農家の生産意欲の著しい低下を招き、耕作放棄地が多く発生し、ひいては集落の崩壊等につながる。
<input type="checkbox"/> 影響無	<input checked="" type="checkbox"/> 影響有			
D 公平性	⑥ 類似事業との統廃合・連携の可能性 目的達成には、この事務事業以外の手段(類似事業)はないか？ ある場合、その類似事業との統廃合・連携ができるか？		理由	
	<input type="checkbox"/> 他に手段がある * ある場合⇒	(具体的な手段や類似事業名)		
	<input checked="" type="checkbox"/> 他に手段がない	類似事業はないため他に手段はない。		
A 目的 妥当性	⑦ 事業費の削減余地 成果を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など)		理由	
	<input type="checkbox"/> 削減余地がある	報償費の減額は実施してきており、減少する駆除班員での大変な駆除活動を支援するため、これ以上の事業費の削減余地は無い。		
	<input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない			
B 有効性	⑧ 人件費(延べ業務時間)の削減余地 成果を下げずにやり方の工夫で延べ業務時間を削減できないか？ 正職員以外や外部委託ができないか？		理由	
	<input type="checkbox"/> 削減余地がある	捕獲確認は職員が1頭ずつ確認を行う必要がある。確認事務の委託等による人件費の削減が考えられるが、委託先がある程度この事業に知識と経験を有する者に限定されるため、委託先の確保が難しい。		
	<input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない			
C 効率性	⑨ 受益機会・費用負担の適正化余地 事業内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？ 受益者負担が公平・公正か？		理由	
	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある	有害鳥獣を駆除し農作物への被害防止を図ることは市内農家と市の農業振興に必要であり、受益者負担は公平公正である。		
	<input checked="" type="checkbox"/> 公平・公正である			

評価 の 総 括	① 1次評価者としての評価結果		② 1次評価結果の総括(根拠と理由)	
	A 目的妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切	<input type="checkbox"/> 見直し余地あり	平成25年度は、駆除頭数が過去最高となり、駆除実績が近年伸びているが、依然として鳥獣被害も多く、こうした被害を少なくするため、更なる事業実施が必要である。
	B 有効性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切	<input type="checkbox"/> 見直し余地あり	
	C 効率性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切	<input type="checkbox"/> 見直し余地あり	
D 公平性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切	<input type="checkbox"/> 見直し余地あり		

3 今後の方向性【PLAN】

① 1次評価者としての事務事業の方向性(改革改善案)・・・複数選択可		② 改革・改善による期待成果																			
<input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 目的再設定 <input type="checkbox"/> 事業統廃合・連携 <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(有効性改善) <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(効率性改善) <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(公平性改善) <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない)		<table border="1"> <tr> <td></td> <td colspan="3">コスト</td> </tr> <tr> <td></td> <td>削減</td> <td>維持</td> <td>増加</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td>●</td> <td>×</td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>			コスト				削減	維持	増加	成果	向上			維持	●	×	低下	×	×
	コスト																				
	削減	維持	増加																		
成果	向上																				
	維持	●	×																		
	低下	×	×																		
<p>特にサルについて、中山間地域研究センターの指導のもと生息調査などを行い、猟友会と連携を密にして駆除の効率化に努める必要がある。 また、シカやアライグマなどの鳥獣に対しての駆除体制を確立していく必要も出てきている。</p>		<p>廃止・休止の場合は記入不要。 コストが増加(新たに費やし)で成果が向上しない、もしくはコスト維持で成果低下では改革・改善とはならない。</p>																			